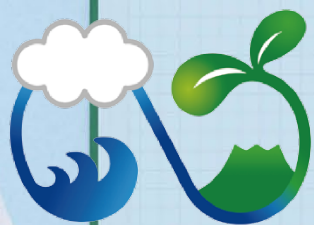


新型コロナウイルス対応の関係で
入試方式等を変更する可能性があります
最新の情報はHPにてご確認ください



専攻HP入試案内ページ→



東京大学大学院新領域創成科学研究科

自然環境学専攻

Department of Natural Environmental Studies

知を横断し、
未知の10-ジを拓く

問い合わせは

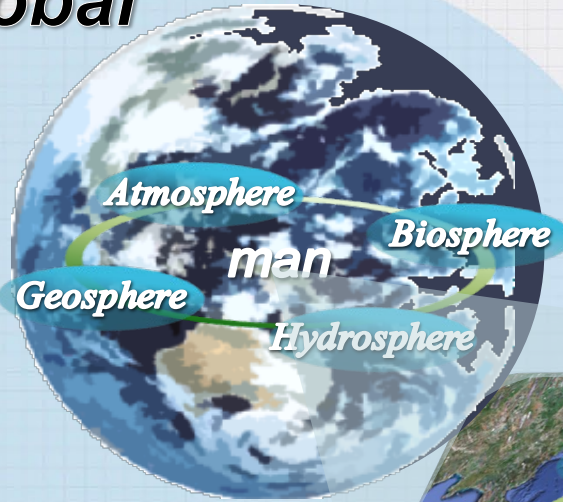
nyushi_nenv@k.u-tokyo.ac.jp

まで



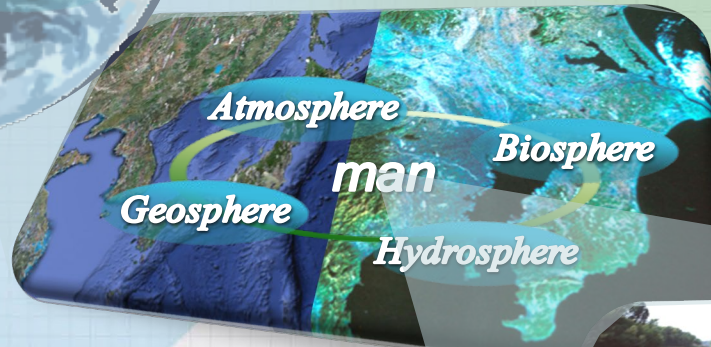
研究教育の目的

Global



1 様々な時空間スケールで
自然環境の特性を知る

Regional



Local

2 人間と自然環境の
よりよい関係性を追求する





陸・海・大気を網羅する多様な教員陣

基幹教員



海洋生物圏環境学分野
木村伸吾 教授
海洋環境学コース長
魚類回遊、気候変動、海洋生態系、
生物生産



地球海洋環境学分野
小島茂明 教授
深海、干潟、底生生物、分子生態学



地球海洋環境学分野
芦 寿一郎 准教授
海底活断層、古地震



海洋資源環境学分野
小松幸生 准教授
物理生物相互作用、海洋生物資源、
数値モデル、環境モニタリング



海洋資源環境学分野
吉澤 晋 准教授
微生物生態、ロドプシン、
生物発光、グノム解析

協力・兼任教員



海洋環境動態学分野
道田 豊 教授
表層海洋循環、
混合層の流連構造



海洋物質循環学分野
小畑 元 教授
微量元素の海洋地球化学



海洋生物圏環境学分野
山本光夫 准教授
水圏環境化学
環境化学工学



海洋環境動態学分野
山崎俊嗣 教授
海洋底地球物理学、
古地磁気・岩石磁気学



海洋物質循環学分野
小川浩史 教授
有機物の動態を中心
とした生元素循環



海洋生命環境学分野
青山 潤 教授
魚類生態、集団遺伝、
回遊行動



海洋環境動態学分野
藤尾伸三 准教授
深層海洋循環、
数値モデリング



海洋物質循環学分野
福田秀樹 准教授
微生物群集の代謝過程を
中心とした生物地球化学



海洋生命環境学分野
井上広滋 教授
環境適応、機能進化、
分子生理学、深海生物



海洋環境動態学分野
田中 潔 准教授
沿岸海洋循環、
海洋力学



海洋物質循環学分野
乙坂重嘉 准教授
海水中の粒子の動きを中心
とした海洋地球化学、環境
放射能学



海洋生命環境学分野
佐藤克文 教授
海洋高次捕食動物の
生理生態学



海洋環境動態学分野
川口悠介 助教
地球温暖化、北極海、
海水後退、海洋乱流、
内部重力波、渦、熱輸送



海洋物質循環学分野
高畑直人 助教
海洋循環、
海洋環境の地球化学



海洋生命環境学分野
峰岸有紀 助教
分子生態学、
集団遺伝学、
系統地理学



海洋生命環境学分野
矢萩拓也 助教
底生生物の生態学、
生物地理学

海洋環境学コース
基幹教員5名 協力兼任16名

陸域環境学コース 基幹教員8名 協力兼任8名

基幹教員



自然環境評価学分野
奈良一秀 教授
自然環境学専攻長
絶滅危惧植物の保全、菌根共生、
集団遺伝、生物系統地理



自然環境変動学分野
須貝俊彦 教授
地形環境、自然地理、
人間-環境系、防災、活断層



自然環境景観学分野
斎藤 馨 教授
ランドスケープ、環境教育、
サイバーフォレスト



自然環境構造学分野
山室真澄 教授
陸水学、沿岸環境学



自然環境構造学分野
穴澤活郎 准教授
火山地域における天然陸水の
水質形成機構に関する研究



生物圏機能学分野
鈴木牧 准教授
樹木の構造と生活史、二次林の管理
放棄、哺乳類の生態系影響



生物圏情報学分野
寺田 徹 准教授
ランドスケープ計画、都市計画、
都市林業、都市農業



生物圏機能学分野
久保麦野 講師
進化生態学、古生物学、比較形態学
陸棲哺乳類

協力・兼任教員



地球環境モデリング学分野
今須良一 教授
人工衛星と数値モデルを
用いた温室効果ガスの研究



環境情報学分野
小口 高 教授
地理情報科学、
地形学



地球環境モデリング学分野
芳村 圭 教授
水の同位体、水循環と気候、
河川環境

連携講座教員



地球表層地質環境学講座
渡辺 真人 教授
生層序学、微生物学、
珪藻化石、地学教育、
地質遺産、ジオパーク



自然環境循環学講座
山本裕史 教授
生態毒性、水環境、
微量汚染化学物質



地球表層地質環境学講座
田邊 晋 准教授
沖積層、地層形成、
海水準変動



自然環境循環学講座
山岸隆博 准教授
生態毒性、水環境、
生物学



地球表層地質環境学講座
田村 亨 准教授
沖積層、地層形成、
海水準変動

総勢37名



異なるバックグラウンドの人が 共に学んでいます

出身大学

東京，北海道，東北，筑波，名古屋，新潟，お茶の水，一橋，東京工業，東京農工，埼玉，千葉，宇都宮，静岡，信州，京都，大阪，九州，琉球，横浜国立，首都大学...

早稲田，慶応，法政，明治，中央，上智，東京農業，東京理科，立命館，立正，東邦，東海，国際基督，青山学院...

出身学部

理学，工学，農学，水産，化学，理工学，環境情報学，地球環境科学，生命理工学，基礎工学，海洋学，園芸学，造園学...

外国語学，人間環境学，教育学，商学，文学，文理，社会工学...

海外から

中国，台湾，韓国，タイ，ベトナム，ミャンマー，ブータン，ネパール，
バングラディッシュ，エチオピア，スーダン，アメリカ，ドイツ，
オーストリア，インドネシア，ブルネイ...



教育研究のキーワード

魚類回遊、気候変動
海洋生態系、生物生産、深海
干潟、底生生物、分子生態学
海底活断層、古地震
物理生物相互作用
海洋生物資源、数値モデル
環境モニタリング、微生物生態
ロドプシン、生物発光
ゲノム解析、水産資源生物
生活史、輸送機構

ランドスケープ、環境教育、
サイバーフォレスト、地形環境、
自然地理、防災、活断層、
絶滅危惧植物、菌根共生、
集団遺伝、生物系統地理、
陸水学、沿岸環境学、
火山地域、水質形成機構、
生活史、二次林、哺乳類、
都市計画、都市林業、
都市農業、進化生態学、
古生物学、比較形態学、
地生態学、地すべり



専攻の研究教育が目指す人材像

自然環境学に関する幅広い素養

特定の分野の深い知識

T型人材の育成

「学融合」をキーワードとした
研究教育で達成



「学融合」を生み出すカリキュラム

その1：自然環境野外総合実習（新入生実習）





「学融合」を生み出すカリキュラム

その2:コア科目群(M1の選択必修科目)

Environmental Information Science
環境情報論(E)

地殻変動論
Geosphere Change

環境化学論
Environmental Chemistry

Ocean Natural Environment
海洋自然環境論(E)

海洋環境臨海実習
Practice in Marine Studies

大気海洋論
Atmosphere and Ocean Dynamics

Terrestrial Natural Environment
陸域自然環境論(E)

自然環境学実習
Practice in Natural Environmental Studies

陸域生態論
Terrestrial Ecology

環境政策論
Environmental Policy

実習:2科目
(野外総合実習を含め2科目選択必修)

水圏生態論
Hydrosphere Ecology

景観形成論
Landscape Planning and Design

環境適応論
Environmental Evolutionary Adaptation

講義:11科目 (4科目選択必修)



「学融合」を生み出すカリキュラム

その3:コースゼミ (週1回の研究進捗報告)



どう伝えたら
他分野の人にも
自分の研究を
理解してもらえるか



卒業生の就職先例

大学 東京大学、東北大学、福島大学、青山学院大学、明治大学、立命館大学、東洋大学...

研究所 JAMSTEC、国際農林水産技術センター、国立科学博物館、国立環境研究所、産業技術総合研究所、森林総合研究所、水産研究・教育機構...

公務員 海上保安庁、環境省、気象庁、国土交通省、水産庁、林野庁、東京都、横浜市役所、柏市役所...

民間 住友林業、国際石油開発帝石、NEXCO、富士植木、クボタ、サントリー、テルモ、マツダ、島津製作所、東洋紡、日清食品、日本マイクロソフト、日本製紙、東京ガス、東京電力、NTTデータ、ソフトバンク、日本放送協会、JR東海、伊藤忠商事、農林中央金庫、都市再生機構、国際航業、高速道路総合技術研究所、清水建設技術研究所、野村総合研究所、ベネッセコーポレーション、アステラス製薬、電通、パソナ...

学校※ 東京都立高等学校、栃木県立高等学校...

※指定された科目を受講することにより、中学校教諭専修免許状（理科・社会）、高等学校教諭専修免許状（理科・地理歴史）が取得できます



分野を超えた人のつながり

「卒業後も同期で集まっています」

「専攻で培うことのできる人脈や視点は、
将来にわたって生きていくものです」

「ワイワイガヤガヤの研究分野のるつぼでの経験が
貴重な財産です」





入学試験の日程など

コロナウィルス対応の関係で
入試方式等を変更する可能性があります
最新の情報はHPにてご確認ください→



出願：**6月11日～17日**（修士，博士とも）

筆記試験（修士（一般）のみ）：**8月3日**

英語，専門科目（環境学、物理学、化学、生物学、地学、
景観、水産学 の7題から2題を選択）

※過去問の入手方法は専攻ホームページを参照して下さい。

口述試験：**8月4日、5日**（事前にスケジュールを調整します）

内定発表：**8月5日**，合格発表（正式）：**9月1日**

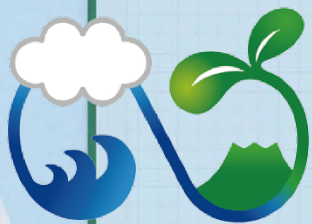


出願にあたっての注意

1. 出願前に志望指導教員(第一希望)に連絡をとって下さい。
ただし、試験問題に関する質問はしないでください。
2. 試験に関して不明の点は入試委員
(nyushi_nenv@k.u-tokyo.ac.jp)まで問い合わせてください。

最新の情報は専攻ホームページ
<http://www.nenv.k.u-tokyo.ac.jp/>
をご覧ください





東京大学大学院新領域創成科学研究科

自然環境学専攻

Department of Natural Environmental Studies

知を横断し、
未知の10-ジ"を拓く